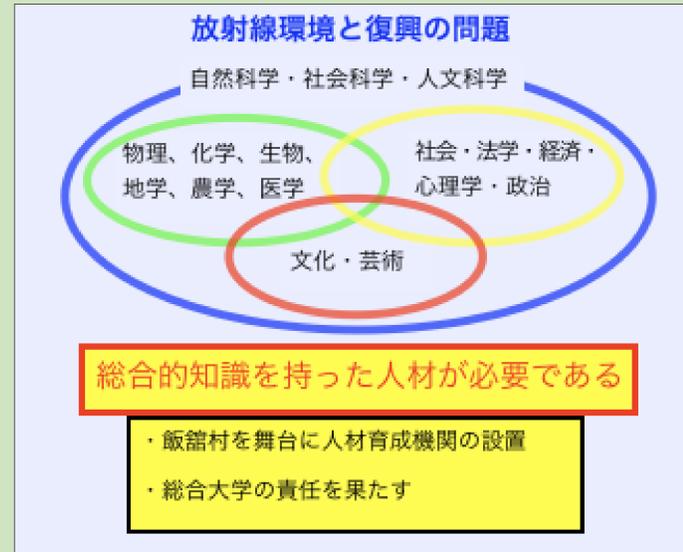


大阪大学 飯舘村環境放射線研修会

飯舘村において環境放射線を題材とした総合教育を実施し、環境放射線についての偏りのない知識と考える力を持った人材を育成する。学年や所属する学部分野を問わず、多様な学生を対象としている。

復興の諸問題は、原子力工学や原子核物理だけでなく、化学・物理・生物・医学などの理学的な分野から、政治・経済・人文・社会・文化芸術に至るまで、様々な学問分野が複雑に関係している。大阪大学ではそれらの分野を横断的に学べる場所として飯舘村の施設を使用し、環境放射線を題材とした総合教育事業を行っている。この事業は2016年度に開始し、2018年度から**大阪大学の正式な授業**として開催している。2017年度からは**飯舘村と大阪大学間の協力協定**のもと飯舘村からより包括的な協力を得、**福島イノベーションコースト促進事業**として実施している。「**多様な知の協奏による先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム**」(令和元年度採択)との連携も計画している。活動の輪は他大学へと広がり、現在では**尚綱学院大学、高知工科大学、岐阜大学、和歌山大学、神戸大学、学芸大学**の学生が参加している。

本年度は9月1日から9月5日に現地実習を予定している。また研修の前に事前講義を大阪大学で行った。研修のプログラムは以下のようなものである。



[1] 事前講義

飯舘村の現地研修前に、最低限知っておいてほしい基礎知識を集中講義形式で伝える。(右プログラム参照)

[2] 現地実習

飯舘村における研修内容

- ① フィールドワークの心得、野外における安全確保等の講義
- ② フィールドワーク
 - ・ 環境における放射線測定法と放射性物質の同定方法の学習
 - ・ 山林内での土壌の採取と空間放射線量の測定
 - ・ 山林の木の葉の採取とその中の放射性物質の測定
 - ・ 飯舘村民の農地牧草地での土壌採取、空間線量測定
- ③ 村民の方々との交流会
 - 環境汚染問題と復興の問題を内側から理解する。
- ④ 郷土の文化や歴史を知る(山津見神社視察など)
- ⑤ 被災地の視察(帰還困難区域、津波被災地、福島第一原子力発電所の見学)
- ⑥ 学生主催の総合討論

事前講義プログラム

■ 7月6日		
10:00	挨拶・研修の趣旨など	谷畑勇夫 (阪大・核物理研究センター)
10:45	放射線を正しく怖がるために	中島裕夫 (阪大・放射線科学基盤機構)
12:00	昼食	
13:30	環境放射能と化学	齊藤敬 (尚綱学院大・総合人間科学部)
15:00	身の回りの放射性物質	高橋賢臣 (阪大・安全衛生管理部)
16:15	放射線の生物影響とそのメカニズム	中島裕夫 (阪大・放射線科学基盤機構)
■ 7月13日		
10:00	現地での注意事項の確認	高橋賢臣 (阪大・安全衛生管理部)
10:30	放射線と物理	青井考 (阪大・核物理研究センター)
12:00	昼食	
13:30	社会のなかの放射線	中村征樹 (阪大・全学教育推進機構)
15:00	統計の見方・使い方	吉田裕介 (阪大・核物理研究センター)
16:30	飯舘村について	東崎昭弘 (阪大・核物理研究センター)

将来に向けての環境放射線研修・研究拠点構想

総合的判断のできる人材を継続的に育成する

1. 飯舘村に大阪大学の拠点を設置し、
2. 大阪大学を中心とした大学の学生に、環境放射線を題材とした総合教育を行う。
3. 世界中から研究者が常に訪れ、環境放射線関連の研究ができるようにする。



今年度より飯舘村立草野小学校の教室を大阪大学飯舘村拠点として使用させて頂く



これまでの現地実習の様子

我々のグループは多岐にわたる専門家からなります

大阪大学	谷畑勇夫, 青井考 高橋賢臣, 吉田裕介 中島裕夫, 中村征樹 中野貴志, 藤原守 東崎昭弘, 本岡和博 山本仁
原子核物理学者	
安全科学	
放射化学者	
放射線生物学者	
社会学者	
核医学	
観光学者	
教育学者	
尚綱学院大学	齊藤敬
京都大学	角山雄一
和歌山大学	加藤久美, ワーン S.
高知工科大	百田佐多生
岐阜大学	住浜水季
慈恵医科大学	箕輪はるか